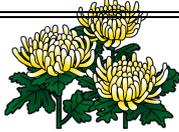
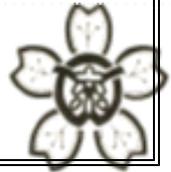


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 963名
令和3年11月1日号



問いを立て、解決する

校長 田邊 雅也

「笑うということについて考えていきましょう。」という教師の投げかけに対して、「どうしてうそをついてまで笑う必要があるのかな。」と素直な疑問を出した6年生のある学級の話し合いがありました。「笑わないと嫌われそう。」「雰囲気から笑っておかなきゃ。」という自分のためにうその笑いをする場合と、「笑わないと相手が傷ついてしまう。」「相手を思いやって笑おう。」という相手のためにうその笑いをする、という二つの視点で考えていました。自分たちで問いを考え、正解はありませんが、自分たちで納得解、最適解を導き出す授業でした。子供たちの深い思考に感心せずにはいられませんでした。

産官学民の連携で気づくこと

こうした取組は、本校の指導者である 帝京平成大学 教授 矢作 信行 様、民間企業のポプラ社 様、博報堂 様、日本マクドナルド 様、QuizKnock 様のご協力を頂き、産官学民（さんかんがくみん※）」と連携した授業となりました。大学や民間企業の風を学校に取り入れることで、子供たちに何が求められているのか肌で感じる事ができました。特に、多面的、多角的にものを見て、どう解決しようかと考え、納得解や最適解を導いていくことは、問題解決そのものです。確かに大人の世界は、毎日が問題解決といっても過言ではありません。 ※産官学民…産(産業界・民間企業)・官(官庁・地方自治体)・学(教育機関)・民(地域住民)

「言葉の力でいじめがなくなるのではないか？」という問い

10月、11月は「いじめ防止月間」です。日頃、ちょっとした言葉から、言い合いになったり、けんかになったりしています。言葉の力でいじめは解決できるのではないかと校長も問いを立ててみました。話す時間は、全校朝会の限られた10分前後です。リフレーミング(※)を紹介し、デジタルリテラシー(今回は動画制作)と教科の学び(今回は国語始め・中・終わりの文章構成)を生かして挑戦してみました。「いじめ防止月間」は、言葉の力で六小みんなが生活しやすい学校になってほしい、という願いを込めて動画制作をしました。(詳細は YouTube 参照)

リフレーミング(※)

…フレームをかえて見ること

(例)

- あわてんぼう → 行動的
- 暗い → 落ち着いている
- 落ち着きがない → フットワークがよい
- 感情的 → 人情的
- がんこ → 意志が強い
- 気が弱い → 慎重
- 無責任 → 無邪気
- プライドが高い → 自分をもっている
- ふざけている → 陽気
- 上から目線 → リーダーシップ 等

生きて働く力を

デジタルリテラシーと教科の学びをリンクさせ、子供たちに「生きて働く力」を育てていくことが大切です。急激な変化が続くこの10年、加速度的な変化を遂げる2030年以降の子供たちの未来を見据え、学習指導要領も改訂されています。繰り返しとなりますが、「GIGAスクール構想」「令和の日本型学校教育」が全国で展開され、iPadを活用した授業改善が朝霞市全体で急速に進んでいるのもこのためです。

ただiPadを使用したり、ただ学んだりすればよいものではありません。多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実がなければ意味がないのです。

大人になったら問題解決の連続であり、変化も激しくなります。今から子供たちにデジタルリテラシーを身につけさせ、時には産官学民と連携し、一人一人を伸ばす教育を目指します。その先の世界を見据えるには、将来にわたる「生きて働く力」の育成は不可欠です。毎日が試行錯誤の連続ですが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。